

2018年度

第1回 保育講演会

日時 2018年6月12日(火)

テーマ 生きる力を育む子育て

～幼児期の親の役割、園の役割～

講師 作家 音楽家 松居 和先生

参加者 74人

アメリカでは三分の一が母子家庭—そんなショッキングな数字から、松居先生のお話は始まりました。世界ではティーンエイジャーが妊娠・出産している。その多くは虐待や近親相姦という辛い子ども時代を過ごした少女たちで、彼女たちは温かい家庭を夢見て、子どもを産む。しかし若い母親には十分な忍耐力が育っていないことが多く、更なる虐待や犯罪につながっていく「不幸の歯車」に巻き込まれてしまう—本来、子どもは親にとって、社会にとって、どういう存在なのか。笑いあり涙あり、ユーモアいっぱい語られるお話を、松居先生の「名言」と共にご紹介します。



名言1 赤ちゃんを泣き止ますには
「アフリカの大草原にマサイ族が一人で立っているのを想像して抱く」

0歳から2歳くらいまでは言葉を持っていません。これには意味があり、親は丸々一年、生まれたばかりの赤ちゃんに「言葉のないコミュニケーション」を取り続けなければなりません。言葉を話せない相手の気持ちを理解しようとすることで、人類は平和になるのです。更に、親はどうにかして赤ちゃんを泣き止ませようとします。しかし泣き止ませたいと思っている限り、泣き止まない。工夫して研究してある日、赤ちゃんがふと笑います。それを見たおとなたちは、自分がいい人間だと思う。おとなたちの心がひとつになる。そういった経験が、親に忍耐力と充実感、祈りの気持ちを芽生えさせます。それが0才児がこの世に授けられた理由なのです。

名言2 「幼児がおとなを良い人にしてくれる」

「おじさんが公園に一人で座っていたら変な人だけど、2歳児と座っているだけで『いいおじさん』に見える。」幼児は手をつなげばギュッと握ってくれ、おとなを信じきり、頼りきり、おとなは自分の価値を認識できるのです。さまざまな人から「良い人間性」を引き出してくれます。砂場で遊ぶだけでこの上なく幸せな幼児を見て、おとなは「幸せは自分の物差しを持ち方次第だよ」と教えられます。

名言3 「父親が子どものそばにいる世界がパラダイス」

埼玉県をはじめ、「一日保育参加」事業の取り入れが進んでいます。この取り組みによって、保護者、特に父親が保育の現場に参加する機会をつくることができています。父親が園に来るだけで、子どもは喜びます。それが父親の心を幸せにします。そして他の子どもとも接することで他の子どもにも責任を感じるようになります。これは子どもたちに大きな影響を及ぼし、子どもも「自分が困ったら友達のお父さん、お母さんが助けてくれる」「自分のお父さんと友だちのお父さんが友だちかもしれない」という意識を持つことができます。その意識こそが将来的にいじめの防止にもつながっていきます。

名言4「あって良かった受験戦争。」

役に立たないことを子どもにやらせて適度に苦しめるためにある」

アメリカでは高卒で読み書きができない子どもが2割にのぼるそうです。これはつまり2割の親が子どもに興味が無いということ。日本では高卒で読み書きができない子はいません。それだけ親が子どもに興味を持って接しているのです。

受験戦争だって、実際、連立方程式も歴史の年号も人生にはほとんど役に立ちません。けれども日本では、受験戦争を共に乗り越えることで、親子の絆が深まるのです。

名言5「卒園してもぜひ幼稚園と縁を切らないでください」

小学生が幼稚園に行くと、数年前までは自分も幼児だったこと、抱っこしてほしい、おんぶしてほしい、親がいないと生きていけない存在だったことを思い出します。不良高校生でも、幼稚園に行くと園児の人気者になります。そして「いい人」になれるのです。

名言6「子育ては、母親の趣味と都合でいいんじゃないでしょうか。」

ある園長さんに、毎日カレーしか作らないお母さんがいると相談を受けた時、初めは否定的に捉えたそうです。でも「インド人は毎日カレーを食べているじゃないか」と思い出しました。お母さんが好きなものを作ってあげていれば子どもの心にとっては充分なことであり、全然悪いことではないのではないのでしょうか。

名言7「お母さんが元気なら子育てはオッケー！」

子育てはうまくいかないから相談したくなります。何かあると専門家に相談することが多くなっている昨今でも、母親に身近な相談相手がいるのは大切です。言い方を変えれば、身近な相談相手を見つけるために子育てをしていると言ってもいいほど、親にとっても子育てを通じてそういう関係ができることは大事で、母親の心が健康に保たれるのです。

本当に、会場から笑いの絶えない、あつという間の二時間でした。

子どもは親を育てるために存在している……たくさんのエピソードを通して語られるこのメッセージを受け止め、明日からの子育てに少しでも笑いと祈りを増やしていきたいと思いました。

松居先生、どうもありがとうございました。

(文責：さくら広報 遠藤志織、奥平つむぎ、下向清、山口晶子、横山礼)

松居先生のお話により、幼稚園の在り方、そして親、保育者としての在り方を考えさせられ、勇気をいただきました。子どもと共に親も保育者も育つ…育てられています。

これからも守るべきことは守り、子どもたちのために変えた方がいいと思われることは変え、御心に問いつつ、歩んで参りたいと思います。

(奈良亜樹子)

講演のDVD・Blu-rayの貸し出しを希望の方は事務室まで…

参加された方より

あやめ赤 植竹 愛

0,1,2才児を育ててから数年経ちました。寝不足でイライラして大変だったことを覚えています。大変ではあったけれど、たくさんの感動を子どもたちからももらいました。無感動な人間だった私がちょっとしたことでも感動するようになったのは、子どもたちのおかげです。今まで気付かなかったことにも気付けるようになりました。松居先生のお話にあったように、子どもたちに育ててもらったのだと思います。そんな力をもった子どもたちを朝から夜まで預けてしまうのは、悲しいことです。安定した生活をすることも大事なかもしれませんが、一緒にいないと見逃してしまうたくさんのことがあるということに気付いてほしいと思いました。講演会を聞いた後、帰り道で。我が子と手をつないでいるときに、私のことをこんなにも信じていてくれてありがとう、と思いました。

今回の講演会の内容は私にとって深刻なものが多かったのに、始めから終わりまで、何度も笑ってしまう講演会でした。子育てで悩んだ事のないお母さんはいないと思いますが、私はとくに最初の子育ての時に、自分が「母」とゆうのに向いていないと感じながら過ごし、野毛山幼稚園に出会ってから少しだけ…ほんの少しだけ母にしてもらえたんじゃないかと思っていました。それが何故なのか考えた事はなかったのですが、松居先生のお話の中にその答えがたくさんあったように思います。もしも数年前の自分に会えるのなら「向いてるか向いてないかなんて考えないで、元気に笑っていてね」と言いたいです。毎回、講演会の後は我が子にいつもより優しい気持ちになるのですが、今回は主人にも、いつもより優しい気持ちになりました。彼に「あなたは2人目が生まれてから、やっとパパになりはじめた」とゆう意地悪を何度も言った事があります。松居先生のお話を聞いて、その事を謝りたくなりました。初めての赤ちゃんを主人から取り上げてしまったのは私。「どうせ私よりはできない、私よりは知らない」と言って、彼が父になるチャンスを奪ったのも私。うちにはもう赤ちゃんはいないけれど、孫ができれば私よりも先に抱かせてあげたいと思います。

さくら白 菅野 美嘉

松居先生の講演会のお話を伺うのは今回で二回目になります。子育てに正解はない、一生懸命育てたら、後は祈るのみとおっしゃっていたのがとても印象的でした。お話を伺って、これからは子どもたちの心に寄り添いながら、子どもたちをよく見て子育てをしていこうと決めました。そして、子どもたちが健康で幸せに生きていけるように祈り続けたいと思います。また、パパもママも一日保育参加というポスターとお話に強く関心を持ちました。幼児たちが人間を育て、保護者は一緒に育てている充実感と先生方への信頼関係や絆が深まるそうです。さらに、子どもたちの間ではいじめもなくなっていくそうで、本当に素晴らしい取り組みだと感じました。是非、チャンスがあれば挑戦してみたいと思いました。私以上に、主人や小学二年生になる娘にも体験してもらいたいと心から思います。

さくら赤 横山 礼

松居先生の貴重なお話を聞いたのも今回で2度目でした。内容はもちろんのこと先生のお話の仕方にはひとを惹きつける力がありあらためてすごいなあと思いました。

一保護者としてどのお話も勇気づけられるものだったり、反省させられるものだったりしましたが、ここ最近の政府の動きにも疑問があったりしたので先生から

「幼稚園無償化」のお話があったときは身をのりだすような気持ちで聞いておりました。保護者としては無償化になることは負担が減ることと思いますが「責任とか感謝の気持ちがなくなるであろう。」のお言葉にはかなり考えさせられるものがありました。今では何が正しいのかという考えが持てませんがもっともっと育児、教育に対して関心を持っていかなくてはと強く思いました。

笑顔の母、かなりの課題です。いつも課題です。でもそれが1番大事なので迷ったらカレーをつくって笑顔でいたいと思います。貴重な機会をありがとうございました。

さくら白 蜂屋 美紀

慌ただしく毎日が過ぎ、日々をこなす事に精一杯で、当たり前の幸せを少し忘れていたのかもしれない。つい叱ってしまったり自己嫌悪になる事もありますが、子供に育てられ、育ち合っているんだと教えていただきました。

子供の笑顔が人の心をつつにする、母の精神が健康なら子育ては大丈夫。この事を心におきながら、楽しく子育てしていきたいと思いました。

あやめ赤 高尾 瑞絵

講演をゆっくり拝聴したいと思い、次男を保育園に預けに行ったため、開演時間を少し過ぎてからの到着となってしまい、汗だくになって席に着いたのですが、周りのお母さんたちが後から来た私に気付かないくらいに集中して耳を傾けている様子に、私もお話を聴き始めると、あっという間にお話に引き込まれてしまいました。

欧米諸国の厳しい現実を聴き胸が痛み、日本での子育てがとても恵まれていることを知り、時に笑いあり、あるお母さんの詩に涙し、心を動かされるステキな講演で、あっという間の2時間でした。なんとなく、親はこうあらねばならない、子供にはこのように対処してあげなければいけない、というような最近の風潮に流されて、そのようにできていない自分に自己嫌悪の毎日でしたが、先生のお話を伺い、今のダメな私でも、健康で生きていられるからいいのだ、楽しいことも苦しいことも、家族で心をつつに合わせていけばいいのだと思えました。

日々、なかなか自分自身と向き合う時間が取れない中、このような貴重な機会をいただきありがとうございました。

あやめ赤 木村 華子

昔、息子や娘が赤ちゃんの頃バスで隣になったご年配の方に今を楽しんでね！とお声をかけて頂く事が多々ありました。0.1.2才児の子育てをしている時には、とても大変で楽しめていなかったなと思います。松居先生が、人生で1番毎日変化がある素晴らしい時期だとおっしゃっていて、まさにその通り！その時、1番近くで成長の変化を見られて、大変より幸せだったと気付かされました。これからは、「ドブにお金を捨てている」を思い出しながら、もっと笑顔で楽しんで過ごしたいと思います。ありがとうございました。

あやめ白 藤野 恵子

9年前、長女を出産した私は、宝物を手に入れた喜びと希望に満ちて育児をスタートさせました。でも、現実はおろおろ、イライラすることが多く、「こんなに大変だなんて知らなかった！」と母に泣きついた時のことを思い出しました。松居先生のお話から、こうした大変さにもちゃんと意味があること、幼児と一緒に私も育ち合っていること、関わりを持つことでそこには絆が生まれること、を理解しました。笑いを織り交ぜながら、人間性の本質や抱える問題をしっかりと見抜き、それを後世に伝えようと必死に私達にメッセージを送ってくださる松居先生のお姿にも感動しました。これから私達ができることを考えながら、子どもに寄り添いつつ、でも一番は私自身が笑って過ごせる日々を送りたいと思っています。松居先生、貴重なお話をありがとうございました。

さくら赤 奥平つむぎ

経済政策のために母親も働くのが当然という風潮の中、働かずにいる事に罪悪感のようなものを感じていましたが、松居先生の幼い子供と一緒に過ごすだけで、親も子供に育てられ忍耐力が付き、いじめや犯罪も減る世の中になるというお話を聞いて少しほっとしたような気持ちになりました。お金を稼いで遊びに行ったり、子供にたくさん習い事をさせたいと思いがちですが、働かずとも子供と一緒に多くの時間を過ごし、ただ一緒に遊んであげる事が子供が本当に望んでいる事なのではないかと思いました。松居先生がお話の中で、幼稚園や学校の親同士つながりが大事というものがありました。最近、ママ友同士のトラブルが面白おかしく取上げられ、私も始めは母親の集まりに参加するのを躊躇していましたが、親同士に交流があると友達の子を預かったり一緒に遊んだり、相手の子供にも自分の子と同じ様に親身になれる。交流を深めればトラブルもありますが、トラブルを恐れて親同士やご近所付き合いがなくなると、相談相手もいなくなり孤立してしまいます。親同士や地域の見守りの目が希薄になる事が、いじめや虐待、犯罪を生むという話にもとても共感できました。凶悪な犯罪が増える最近、犯罪者も子供の時から悪人だったわけではありません。赤ちゃんを保育園に預けず親が大切に育て、おとな達が欲を捨て、子供という時間を大切に、子供を育てる事によって自らも成長する事がいじめや虐待、犯罪を減らせるなら、こんなに素敵なお話はないと思います。なかなか実践はできませんが、そういう気持ちを忘れずに自分の子供も、友達やご近所の子供も育てて行きたいです。

あやめ赤 則久 直子

「幼児には社会において特別な役割がある」松居先生がこのように仰られた時、ハッと致しました。子供はおとなが作った社会において役割がある存在であると気がつくのは難しいように思います。今回の講演会で気づきを頂いたように思います。現代社会の流れと子育ての理想が離れてしまう時、自分のものさしがどうか子供よりであって、そのなかでベストを尽くすことができますようにと思いました。日々の忙しさに飲み込まれそうになったとしても子育てこそが大切なのではと思いました。アップテンポの楽しい話し方で引き込まれた笑いあり涙ありの素敵な時間をありがとうございました。ご準備くださった皆様、ありがとうございました。

さくら白 黒澤 徳子

楽しみにしていた講演会、テンポ良くお話が始まり、すぐに引き込まれていました。笑ったり、泣いたり楽しい時間はあっという間に過ぎ、聞き終わった時には晴れやかな気持ちになっていました。子を産み、育てることは生きている自分を確認し、幸せの意味、見つけ方を知る道。幸せのものさしの持ち方、自分次第で幸せになれるというお話に共感いたしました。また最後に紹介していただいた「愛し続けていること」の詩にとっても感動しました。忍耐力が足りずにイライラとすることも多く、優しい顔で娘に接することができていない自分を反省しました。本当にいつも子どもに育てられているなど実感しました。沢山の幸せを与えてくれて自分を成長させてくれる子どもを授けられたことを改めて感謝します。今回の講演会も大切なことを考える貴重な時になりました。このような機会をありがとうございました。

何かの本で読んだ「どんな問題にも両面がある」というギリシャ哲学者の名言があるのですが、松居先生のお話はまさに、日常深く考えずに受け容れている物事の裏側を抉るような内容でした。

「福祉が進めば家庭が崩壊する」
アメリカで・イギリスでは4割、フランスで5割、福祉国家スウェーデンでは6割の子どもがシングルマザーの元に生まれるそうです。これを「母親が働きながら子育てできる福祉社会の賜物」と称賛すべきではない、と松居先生は警鐘を鳴らします。明治以降我々日本人は兎角欧米が「先進」であると考えがちですが、実は江戸時代の男女・老若の別なく共同体全体で子育てをする社会のあり方こそ幸福ではないかと。

それでも今の行政は保育園を増やすことに躍起になっています。

『待機児童』なんていない。保育園の前に幼児が並んでますか？子どもは母親といたいはず」
保育園に入ると大抵の子は大泣きします。それも一週間もすれば慣れるといいますが、でもそれは、実は「慣れる」のではなく、母親を求めることを「諦める」のではないかと。

働いていた頃「ワーママは忙しくて大変だね」とよく言われましたが、母親よりも長い時間、子どもは保育園にいます。朝9時から夕方6時まで、昼休憩もなく8時間+残業1時間です。二歳児が立派にサラリーマン並み！

自分の都合を一度わきに置いて、物事のもう片側をのぞいて見てみると、思いがけずぞっとすることがあります。

私自身も妊娠当時、新卒で入社した会社を辞めることなど微塵も考えませんでした。しかしいざ一年半の育休期間を経て復帰してみると、子どもと過ごす時間の短さ・せわしなさは想像以上で、子どもと遊ぶどころか笑いかける余裕すらありません。そんな毎日を通してしみじみ思ったのです。共働きの方が確かに収入は増えます。でも朝から晩まで保育園に入れられる日々と朝から晩まで親子で過ごす日々、自分の子にとってどっちが幸せか。仮に5年の休業がどれだけ私の人生に影響するのか。逆に幼児期の育児を他人任せにすることが息子の心の成長にどれだけ影響するのか。

松居先生の講演で心に沁みしたのは、ある保育園の園長先生が職員にこう仰ったというエピソードです。「もし園児が初めて立ったのを見て、それを絶対に親に言うてはだめだ」

初めて立って、初めて話す。その感動を積み重ねて親は親になっていく。ただでさえ子どもと過ごす時間が僅かしか取れない親から、その機会まで奪ってはいけません。子どものために心を砕いているのは親だけではないのだなあと、教育者の方々の心の深さに改めて感謝し、深く頭を垂れたい気持ちになりました。

余談ですが、我が家では一時期毎日オムライスだったことがあります！息子に毎日リクエストされ、他のメニューにしなよと言うのも面倒で、昨日は定番ケチャップ、今日はツナ入り和風、明日はカレーがけといった具合。どうせすぐ飽きるだろうと思ったら案の定、今はたまにしか言ってきません（笑）現在一人で生活費を稼いでくれる主人には「アタシ人生の夏休み中～」と言い切って、息子の成長を楽しく見守りたいです。

松居先生のお話を聞かせていただくのは2回目でしたが、今回も泣いて笑ってとても豊かな時間を過ごさせていただきました。

前回の講演会后、「母ちゃん元気ならそれで良い」をモットーに笑って過ごすことを目標にしてみました。

いるだけで良い人間性を生み出してくれる、頼りきって、信じきって、楽しそう。そんな神様のような子どもたちに囲まれて一緒に過ごせた幼児期は本当に幸せだったのだと改めて感じました。まだ幼稚園で子どもたちと過ごすことのできるお母様たちが羨ましいです。どうかその幸せな時間を大切に、より素敵な時間を過ごしていただきたいです。日々生活していく中でつまづくこともあります。そんな時はインドのカレーを思い出し「・・・そうかもしれない。」と再確認しながら乗り越えていきたいなと思います。卒園して少しずつ大きくなっていく息子と娘、そして私自身も時々幼稚園に漬け込みに来させていだきたいと思えます。

素敵な講演ありがとうございました。

松居先生のテンポの良いお話しにあつという間に引き込まれ、笑いあり涙ありのとても充実した2時間でした。

子どもたちが親を育てるというお話が特に印象に残りました。

思い返せば、子供を産んでからの5年間、子供の素晴らしさに感動し、その存在に幸せを感じる一方で、親としての不甲斐なさに落ち込んで悩みに、と子供を通して様々な気持ちを経験しました。子供を通して見る世界や自分自身には、本当に多くの気づきがあり、そうした経験が私を少しでも前進させてくれていれば嬉しいと思います。子供とこれほど密に関われる今のこの時に感謝の気持ちを持って、子供を通して生まれた人間関係を大切に、毎日を過ごしていきたいと改めて思いました。

最初から最後まで松居 和先生の迫力とお話しのリズムに引き込まれました。
『インド人は毎日カレー』私にとって息抜きさせてくれる魔法の言葉になりました。
あっという間の楽しい講演会でした。ありがとうございました。

久しぶりにお会いした松居和先生は、以前と変わらずパワフルな方で、笑って泣いて考えさせられ、あっという間の2時間でした。
お母さんが元気である事が何よりも家族の幸せに繋がるとのお話には、そうか！私が笑っていると子供達も主人も安心するんだな。小さい事で怒ってる場合ではないと、とても前向きになりました。そして「この園と、相談し合える親同士のつながりを大切に」という言葉が卒園した今、本当に心にしみました。子育ての悩みを相談できる人がいる事はどんなに心強い事だろう。三年間、共にしてきた時間はかけがえのないものでした。和先生、たくさん気づかせて下さってありがとうございました。

笑いあり涙ありで、松居先生の巧みな話術に引き込まれ、あっという間に時間が過ぎていました。恵まれた家庭環境で育ってきた事、子どもは家族や仲間の心を一つにしてくれる事に改めて気付かされました。
「ここにいるお母さんは、野毛山幼稚園の幸せな空間でのほほんと過ごしている。それだけでいいの！良い意味で世間知らず！」と仰る松居先生。
講演会の後日、公開保育に参加しましたが、安心して楽しい環境を与えてくださる野毛山幼稚園は子どもにとってもおとなにとっても楽園！これからも世間知らずでのほほんと、毎日笑顔で過ごせる親でいたいと思いました。

今回2回目となる松居先生の講演会、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。先生のお話を聞いて、今親としていられることの喜び、そして、一方的に育てている気でした子どもに、実は親心を育ててもらっていることを知り、子どもたちへ感謝の気持ちでいっぱいです。小学1年生の次男は、一緒に歩くときはまだ手をギュッと握ってくれます。この手が離れてしまう日もそんなに遠くはないと思いますが、1日1日を大切に親子の絆を深めていけたら幸せです。
素晴らしい講演会に参加させていただきありがとうございました。

私だけかもしれないが、初めての子育ての時は幼児期が大切と言われても素直に受け入れられないほど苦痛だった。辛い妊娠時期から解放されたかと思ったら24時間続く子育てのプレッシャー。家にずっといると社会と分断された気分になり、夜泣きをすれば夜が怖く、ご飯もゆっくり食べられず、しまいには人見知りしてママじゃなきゃダメときたもんだ。早く大きくなってくれと思ってた。当たり前だが、三人目となると（上二人と離れているのもあって）気持ちに余裕があった。年の功かもしれないが、なぜ余裕があるか先生のお話を聞いて考えてみると家族の絆ができつつあるからだと思った。私は孤独ではなかった。我が旦那は三人も子供がいるのに相変わらずイクメンではない。しかし子供がぐずっても眠いからだとわかったり、私がぐうたらしても日々の育児が大変なんだと理解してくれるようになった。我が家なりの父親の役割ができきている。
我が家には思春期の娘がいるが、まだまだ親を頼りにする。親として気を緩められない。幼児期だけでなくまだまだ大切な時期が続いていると実感する。子育ては子供の成長だけでなく親にとっても大人としての成長をさせられている。子供から学ばせられている。いい人にしてもらっている。本当にそうだと考えた。
イクメンではない旦那を先生の講演を聞かせるべきだったと思ったが、現在私は母ちゃん元気に当てはまるので購入した本をさりげなく置いておくことにした。

